

毛呂山町議会議員 第16号

岡部かずお町政見聞録

発行人 岡部 和雄
(毛呂山町議会議員)

毛呂山町毛呂本郷227番地
TEL 049-294-0018
FAX 049-294-5345
<http://kazuo-club.jp>



プロフィール

- 昭和33年(1958年)毛呂本郷に生れる。
毛呂山小・中学校卒業。県立松山高等学校卒。
東洋大学経済学部卒業。
- 昭和62年29歳で毛呂山町議会議員初当選
- 平成11年9月第45代毛呂山町議会議長に就任
- 各常任委員長・西入間広域消防組合議会議長等歴任
- 平成23年8月1,316票の得票で7回目の当選

若者が定住するまちへ

毛呂山町の人口推移を見ると、近い将来六十五歳以上の割合は、四人に一人から、三人に一人の割合になります。元氣な高齢者が増える一方、療養をしながら家にとじこもりがちなる方、高齢者だけの世帯や一人暮らしの方も増えていきます。

祭礼や清掃活動などのイベントを行うのが困難な家庭が多くなると、行事を取りやめるか、若い者だけで行うかの選択が近い将来迫ってきます。

左図は、国立社会保障・人口問題研究所の推計した二〇一〇年と二十年後の二〇三〇年の五歳ごとに集計した人口の比較です。

総人口は、五、三二二人減り三三、〇〇五人となり五十九歳以下の人口が減って六〇歳以上の人口が増える見込みです。働き手が減り、高齢者が増える社会が想定されます。この社会現象により税収が減り、結果的に更なる行財政改革をすすめてはなりません。町の財政もさらに厳しくなっています。しかしながら何もしなければ寂しい町になってしまいます。また、人口減少を止めるには、若者が毛呂山に住んでもらうと同時に定住してもらう必要があります。そのためには「雇用の確保」をし、「税収入増」を図るこれが私の主張です。

時下益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

激動の二〇一二年でありました。天台ショーの金環日食、東京スカイツリーの開業と天を仰ぐ出来事が続きました。ロンドンオリンピック・パラリンピックの日本人選手の大活躍とは対照的に、今の国民の焦燥感には更に高まり、既成政党への失望と、政策には、具体的な説明も何もない維新の会との比較にただため息をつくばかりです。

また教育界では、いじめ、自殺により尊い命を失われ、改めて、家庭教育・学校現場など地域が一体となった教育環境の整備が早急に必要です。

長びく景気後退は、町内の中小企業・小売店でも更に厳しい状況が続きます。消費税増税という形で負担増に私たち国民は正に天を仰ぐ思いです。

そんな社会情勢のなかでの自治体運営は、今日から全ての従来のまちづくりの考え方を換え、お金の使い方を工夫しなければ、数年先には大変なことになります。

市場経済感覚とスピード感を持ち次の世代に「もろやま町」を引き継がなければなりません。町内の商工業者をもう一度よみがえらせ雇用を確保し、若者が定住する町づくりをしなくてはいいけません。これからの私の政治生命をかけて責任世代五十四歳、町の再生のために全力投球をしますので変わらぬご支援をお願いします。

毛呂山町将来推計人口



